世界史Ａ学習指導案

岡山県立津山高等学校　　科　　年　組

令和元年　月　日（　）　　第　校時　　３年　組学級教室　　指導者：

単元名	第１章　ユーラシアの諸文明と交流　　８　地中海世界の形成
目標	○古代ギリシア・ローマの繁栄と衰亡を概観し古代国家について関心を高め、意欲的に追究しようとする。（関心・意欲・態度） ○古代ギリシア・ローマに関する諸史料に基づき、当時のギリシア・ローマ社会を近現代と比較し、共通点・相違点を明らかにすることで当時の社会の特徴を表現することが出来る。（思考・判断・表現） ○古代ギリシア・ローマに関する史料から有用な情報を読み取り、古代ギリシア・ローマ社会の実態を把握し、当時の人々の生活を考えることができる。（資料活用の技能） ○古代ギリシア・ローマ文明の特質を大観し、近現代世界を理解する前提とすることができる。（知識・理解）
指導上の立場	○生徒の実態 ３年次から普通科自然コース・理数科全員が世界史 A を履修している。授業態度は概ね良好で、こちらからあまり知識を出すことなく問いを投げかけたときでも考えようとする姿勢がみられる【G】一方で、問いを考える際にどのような手順を踏んで考えればよいか【V】や、問いに対してどのような根拠をもって答えたか【R】を考えることのできる生徒は少ない。そこで今回はある対象に対し史料から考える際にどのようなことに注意して史料と向き合えばよいかを理解する授業とし、生徒の中で歴史を考える際の Vision の養成を目指したい。 ○単元観（題材観・教材観） この単元では、古代ギリシア・ローマを扱うため、生徒たちの中には日本とは程遠い異国の歴史だと思う者もいると想定される。しかし、ヨーロッパの近現代史を考える際に古代ギリシア・ローマの歴史は欠かせないものである。さらに古代ギリシアの民主政は現代の民主主義の原点となる部分でもあり、そういった接点から生徒の興味・関心を引き出していきたいと考えている。 ○単元で工夫する点や手だて この単元では、史料から歴史を思考する手順（Vision）に重きを置いて学習を進めていきたいと考えている。具体的には史料を読む際には、「その史料を誰が書いたか」「その史料の種類は何か＜歴史書・劇など＞」といった視点をふまえて読むことや、自分の考えを述べる際には「史料中のここに書いてある」という根拠を明らかにしながら述べることなどを理解できるように発問をしていきたい。

	主な学習活動	具体的な評価規準（◇）と評価方法
指導と評価の計画 全３時間	第一次　　ギリシアのポリスの盛衰（2 時間） ○ペロポネソス戦争の史料から、史料を読む際に注意すべき点について理解する。 ○当時のアテネの女性が置かれた立場について現代と比較して考えることで当時のアテネの社会を理解する。	◇資料を読む際に注意すべき点を理解した上で、史料の内容を正確に読み取ることが出来る。（資）＜ワークシート＞ ◇史料に基づき、当時のアテネの女性が置かれていた立場について現代と比較しながら考察することができる。（思）＜授業観察＞＜発表＞
	第二次　ギリシア・ローマ文化（1 時間） ○ギリシア・ローマの文化に関する人物の年表を政治や社会の出来事と関連付けて読み取ることが出来る。	◇ギリシア・ローマ文化と政治・社会を意欲的にむすびつけようとしている。（関）＜ペアワーク＞

本時案（第一次の１時間目）		
目標	ペロポネソス戦争の史料から、史料を読む際に注意すべき点について理解する。（資料活用の技能）	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など
１　本時の流れを聞く。本時の目標を把握する。	○本時の目標と次時の目標をスクリーンに写し、当時のギリシアの女性について考える際の見通しを示す。【V】	
本時の目標：ペロポネソス戦争の史料から、史料を読む際に注意すべき点について理解する。		
２　ワークシート上の「３.」の問いに答える。 （１）　個人で考える。 （２）グループで個人が考えた流れを共有する。 （３）全体で考えを共有する。	○机間指導を行いながら、ペンが進んでいない生徒に関してはヒントを出す。 ○話があまり進んでいないグループに関してはヒントを出す	
３　ワークシート上の「４.」の問いに答える。 （１）個人で考える （２）グループで個人が考えた流れを共有する。 （３）全体で考えを共有する。	○机間指導を行いながら、ペンが進んでいない生徒に関してはヒントを出す。 ○話があまり進んでいないグループに関してはヒントを出す	
４　まとめを行う （１）個人で考える （２）グループで個人が考えた流れを共有する。 （３）全体で考えを共有する。	○史料を読み取る際に注意すべきことは科学論文などを読む際にも共通して重要であることを伝える【V】	
５　次回予告を行う ６　振り返りを記入する	○今回の授業は「史料」について深く考えたが、次の時間は「女性」について深く考えることを伝える。	・史料を読む際に注意すべき点を理解した上で、史料の内容を正確に読み取ることが出来る。（資）＜ワークシート＞

ペロポネソス戦争から「史料」と「女性」について考える。

１．目標の確認

本時の目標：ペロポネソス戦争に関する２つの史料を批判的に読み、史料を読む際に注意すべきことが理解できる。

（次時の目標）：ペロポネソス戦争に関する２つの史料に基づき、当時のアテネの女性が置かれていた立場について現代と比較しながら考察することができる。

２．背景知識の確認

＜ペロポネソス戦争＞（前 431～404）

・アテネ中心のデロス同盟と、スパルタ中心のペロポネソス同盟の戦争。アテネとコリントスの紛争が発端となり、全ギリシアをまきこむ戦争となった。

＜ペリクレス＞（前 495 頃～前 429）

・アテネ全盛期の政治家。15 年連続で将軍に選出され、アテネを指導し、古代民主政を完成させた。弁舌にすぐれ、特にペロポネソス戦争の葬送演説が有名。

＜トゥキディデス＞（前 460 頃～前 400 頃）

・アテネ出身の歴史家。ペロポネソス戦争に将軍として参戦するが追放され、亡命生活を送った。

＜アリストファネス＞（前 450 頃～前 385 頃）

・アテネ最大の喜劇作家。ペロポネソス戦争期に活躍し、同時代の政治家や哲学者を風刺・批判した。

３．ペリクレスの葬送演説から「史料」と「女性」について考える

ペリクレスの葬送演説（前 431 年頃）　ペロポネソス戦争最初の冬

残された子供たち、弟たち、諸君にとってこれからの試練はけわしいものとなる（人はみな逝きし父兄たちを称えるからだ）、いかに諸君が克己精励して徳を磨くとも、かれらを凌駕することはおろか等しいとさえ思われず、つねにやや劣るとの評に耐えねばなるまい。生者が死者と競うとき、見るものは生者に嫉妬を覚えるが、死者にはすなおな好意をささげるからだ。このたび夫を失うこととなった人々に、婦徳について私からいうべきことはただ一つ、これにすべてのすすめを託したい。女たるの本性にもとらぬことが最大の誉れ、褒貶（ほうへん）（事の良し悪しを言うこと）いずれの噂をも男の口にされぬことをおのれの誇りとするがよい。

（トゥキュディデス『歴史』Ⅱ.49、藤縄謙三訳、京都大学出版会　作問の都合上一部改変）

Q1「ギリシア人が、ギリシアの戦争について書いた歴史書」という点を考慮し、この史料を読む際に注意すべきこと（批判的に読むポイント）は何か

３年（　　）組　（　　）番　名前（　　）

Q2.ペリクレスは「婦徳」とはどのようなものだと言っているか

４．『女の平和』から「史料」と「女性」について考える

アリストファネス『女の平和』（前 411 年）　ペロポネソス戦争後半

アテナイの夫人リュシストラテ　　あたしたちが…，アモルゴス製の透き通る肌着を着て，身体じゅうまる見えで，…そばを通ってご覧なさい，男たちはいきり立って、からみつきたいと思うでしょう，ところがよ、あたしたちはそれに応ぜず、知らぬ顔の半兵衛さんをきめこめば、大急ぎで休戦条約よ、きっと間違いなし。

（世界史文学大系２『ギリシア・ローマ古典劇集』筑摩書房）

Q1.「男が書いた女が主人公の喜劇」という点を考慮し、この史料を読む際に注意すべきこと（批判的に読むポイント）は何か

Q2.アテネ（アテナイ）の夫人たちは男たちにどうしてほしいのか（根拠を明らかにしながら）

５．まとめ

Q.史料を読む際に注意すべきことは何か

Q1. 授業の冒頭に挙げた「本時の目標」は達成できましたか？

十分達成できた　　達成できた　　あまり達成できなかった　　達成できなかった

Q1 で選んだ項目について、その項目を選んだ理由を教えてください。

Q2. 今日の授業についての感想・意見などを自由に書いてください。

次回は、アテネの女性が置かれていた立場について考察します！

・当時の女性はなぜ、その立場に置かれていたのか。

・現代の女性が置かれている立場と比較して、どのような立場だといえるか。

などなど、考えを深めていきます。